



マーケット・レポート

情報提供資料
2026年7月24日

金(ゴールド)価格の直近動向と今後の見通しについて

米利上げ観測が重石も、下落基調の長期化は想定しにくい

- 金価格は4000ドル近辺まで下落、米国の利上げ観測に伴う利回り上昇を受けて上値が重い
- 米ドルの代替資産として、各国中央銀行の中長期的な金への投資需要は継続すると予想

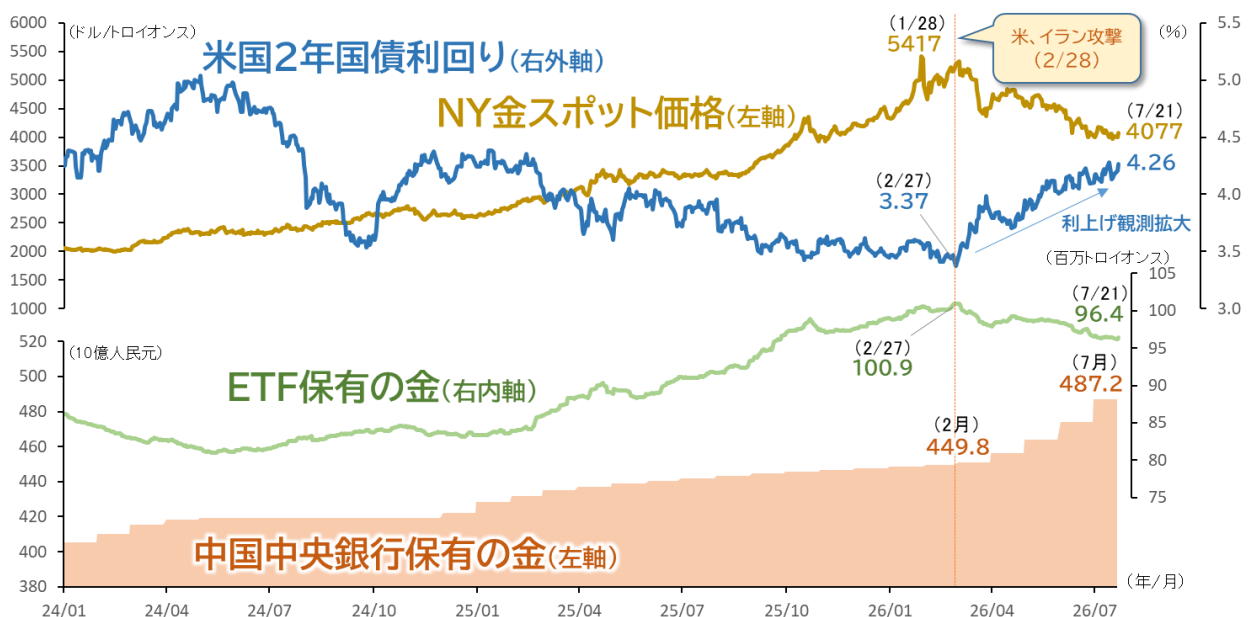
【足元の金価格の動向】

- NY金スポット価格は、今年1月に5400ドル台(1トロイオンス、以下単位省略)まで上昇したあと、イラン戦争が始まって以来は下落基調へと転じ、足元では4000ドル近辺まで下落しました。金価格下落の要因としては、FRB*1による利上げ観測の高まりから政策金利見通しが反映されやすい米国2年国債利回りが上昇し、金利が付かない金に対する積極的な買いが手控えられていることが挙げられます。
- 利上げ観測が高まった背景には、1)原油価格の上昇によるインフレ上振れ懸念の高まり、2)3月以降に発表された米国の雇用統計が予想を上回る強い内容であったこと、3)6月開催のFOMC*2でインフレ高止まりへの警戒感が示されたこと、などが考えられます。

【今後の見通しについて】

- 中東情勢は緊迫した状態が続いていることから、原油高に伴うインフレ上振れ懸念が残り、FRBによる利上げ観測は後退しにくく、金価格の上値を抑える要因になると考えます。ただ、金価格の下落基調が長期化する展開は想定しにくいと考えます。
- 理由としては、今後も金の継続的な購入が期待できる投資主体の存在です。イラン戦争の開始以降、金を売却しているのは主に短期的な投資家で、代表例がETF*3を通じた個人マネーとみられます。一方、中国の中央銀行は金価格が下落した3月以降、着実に金を買増しています。世界の分断が進む中、中国やその他の新興国が米ドル資産に替わる安全資産として金を保有しようと、今後も金の購入を続けることが予想されます。そのため、中国をはじめ各国の中央銀行による継続的な買いが金価格を下支えすることで、足元の下落基調は長期化しにくいと予想します。

金価格と米国2年国債利回りと投資主体別の金保有量



【出所】ブルームバーグの提供データ等に基づき、りそなアセットマネジメントが作成

※当資料の使用に際し、最終ページの＜当資料に関するご留意事項＞を必ずご覧ください。

作成:運用戦略部 投資戦略グループ シニア・ストラテジスト 有本 誠

〈補足〉

- *1 FRB … 連邦準備制度理事会 (Federal Reserve Board)。米国の中央銀行の意思決定機関にあたる。
- *2 FOMC … 連邦公開市場委員会 (Federal Open Market Committee)。米国の金融政策決定会合にあたる。
- *3 ETF … 上場投資信託 (Exchange Traded Funds)。証券取引所に上場し、株価指数などに代表される指標への連動を目指す投資信託。

〈当資料に関するご留意事項〉

■当資料は、リそなアセットマネジメント株式会社が投資環境についてお伝えすることを目的として作成したものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。■当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。■当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、リそなアセットマネジメントが設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。なお、掲載されている見解は本資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。また、事前の連絡なしに変更されることがあります。■投資信託は、値動きのある資産を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元本を割り込むことがあります。■投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しします最新の「投資信託説明書(交付目論見書)」および一体としてお渡しする「目論見書補完書面」を必ずご確認のうえご自身でご判断ください。